おはなしシリーズ

13

はなさかじいさん





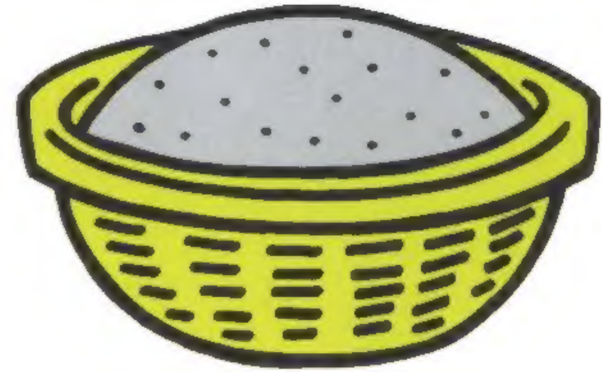
むかし　むかし　こころの　やさしい　おじいさんが
しろい　こいぬを　かっていました。
「ここほれ　わんわん。」
あるひのこと　こいぬが　ほえるので　おじいさんが
はたけを　ほると　こばんが　たくさん　でてきました。



それを　みていた　となりの　よくばりじいさんは
こいぬを　むりやり　はたけに　つれていきました。
こいぬが　なくので　はたけを　ほりましたが
こばんどころか　いしころしか　でてきません。
「こいつめ　わしに　うそを　おしえたな。」
よくばりじいさんは　こいぬを　ころしてしまいました。



「なんと　かわいそうなことを　したもんじゃ。」
おじいさんは　こいぬの　おはかを　つくって
そばに　ちいさな　きを　うえました。
きは　すぐに　ふとくて　おおきな　きに　なりました。
あるひ　おじいさんが　きを　きって　うすを　つくり
おもちを　つくと　おもちが　こばんに　かわりました。



それを　みていた　となりの　よくばりじいさん。
さっそく　うすを　かりて　おもちを　つきましたが
おもちは　ぜんぶ　ごみになってしまいました。
「この　やくたたずめ。」
よくばりじいさんは　うすを　もやしてしまいました。
「せっかくの　うすが　はいになってしまった。」



しかたがないので　おじいさんは　はいを　あつめて
いえに　もってかえり　にわに　まきました。
すると　いちめんに　はなが　さいたのです。



「かれきに　はなを　さかせましょう。」
おじいさんが　そとに　でて　はなを　さかせていると
とのさまが　とおりかかりました。
「この　はなを　さかせたのは　じいさまか。
こんなに　みごとな　はなを　みるのは　はじめてじゃ。」
おじいさんは　ほうびを　どっさり　もらいました。



それを　みていた　よくばりじいさん。
「かれきに　はなを　さかせましょう。」
とのさまの　まえで　あつめた　はいを　まきましたが
はなが　さくどころか　とのさまは　はいだらけ。
「なんと　けしからん。　この　じいさんを　とらえろ。」
よくばりじいさんは　ろうやに　いれられてしまいました。